

健康・医療心理学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》本谷 亮 (心理科学部) motoyan@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

公認心理師が担当し、活躍を期待されている5領域(「保健医療」、「福祉」、「教育」、「司法・犯罪」、「産業・労働」)の中でも、「保健医療」領域は、公認心理師養成カリキュラムのなかでも、外部実習が必修とされるなど、特に重要な領域である。実際、心理職のうち、「保健医療」領域に勤務する割合は高いほか、他領域であっても、「保健医療」領域の専門家との連携は非常に多い。そして、「保健医療」領域における心理職の基盤となるものが「健康・医療心理学」の知識と技術である。

「健康・医療心理学」は、特に「保健医療」機関で不可欠な疾患、アセスメント、心理的支援について網羅的に学ぶ科目である。また、単に専門的知識、技術のみではなく、心理学的支援を円滑、かつ効果的に進めるための連携についても学習する。本科目は、臨床心理学はもちろんのこと、神経・生理心理学、発達心理学、人体の構造と機能及び疾病、精神疾患とその治療、心理的アセスメントなど、さまざまな科目と関連する部分が多い。そのため、本科目を通して、関連科目の学びが統合的に深まり、3年次以降の健康・医療心理学 を含めた実践科目、および実習科目で求められる知見が習得できることを目指す。

【学修目標】

健康心理学、医療心理学の特徴と実際を理解する。

医療機関での心理職の役割を理解する。

医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を理解する。

ストレスと心身の疾病の関係を理解する。

さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援を理解する。

医療機関で心理職が実践する主なアセスメントの特徴と実際を理解する。

精神科、小児精神科、心療内科、小児科、神経科領域における心理職の役割と支援の実際を理解する。

難治性疾患、慢性疾患、依存症、身体疾患の合併症例における心理職の役割と支援の実際を理解する。

災害心理学の意義、災害が引き起こす諸問題、および災害時等に必要な心理に関する支援を理解する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.人の心と体の基礎知識をもち、患者中心のケア、医療倫理の遵守などのケアの原則を踏まえ、「医療人としての視点」に立ったデータサイエンティストとしてふさわしい解決策の策定能力を身につけている。

【実務経験】

公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

主として医療現場での臨床経験に基づき、事例を取り入れ、実践的な講義を展開する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している